

あなたと議会のかけはし

ふだい

議会だより



2014
No. 129

平成26年11月13日発行

ボールはわたさない!

広くなった園庭でサッカーを楽しむ子どもたち。(11月10日、はまゆり子ども園)



9月定例会のあらまし 2ページ

村の考え問う! — 3議員が一般質問 4ページ

請願・陳情、25年度の決算54億円を認定! 7ページ

特別企画 — 「地球村ふだいの明日を担う中学生議会」 10ページ

9月定例会のあらまし 総額54億円の決算を認定

村議会9月定例会が9月17日から19日の3日の会期で開かれました。一般会計と3つの特別会計の補正予算や条例の一部改正、工事の変更請負契約、教育委員の任命など村から8議案が提出され、慎重な審議の結果、全員賛成で可決されました。

平成25年度の決算については、特別委員会を設けて集中審査。総額54億円を審査した結果、認定としました。請願・陳情は4件を採択し、議員発議案として本会議に提出。4件とも全員賛成で可決しました。一般質問は3人が登壇。活性化推進策や豪雨対策などについて問題提起しました。



フロントなどの改修が行われる「くろさき荘」

事務室とフロント 食堂が同じ階に

国民宿舎くろさき荘勘定は同荘の売店・フロント改修工事に2千万円を計上。現在の事務室とフロント、売店を改修し、現在工事中の食堂(約60席)に連結させるための工事をしています。

これによりフロント、売店、食堂、厨房が同じ階になることから、これまで客室から遠かった食堂が解消され便利になります。完成は今年12月末を予定しています。

社会教育委員 定数を10人以内に

社会教育委員の定数を15人以内から10人以内としました。



9月定例会の初日に行われた榎屋村長の行政報告

くろさき荘 事務室など改修に2千万 今年12月の完成目指す

9468万円を 増額補正

本定例会では一般会計と国民健康保険・簡易水道・休養施設事業の3特別会計に、総額9468万4千円を追加する補正予算を可決しました。

このうち一般会計では、歳入歳出にそれぞれ6213万7千円増額し、総額を28億9534万3千円としました。特別会計では、国民健康保険特別会計に前年度繰越金1060万8千円を増額し総額5億2310万8千円にしたほか、簡易水道特別会計では70万円を減額。総額を1億2141万5千円にしました。

また、休養施設事業特別会計は、国民宿舎くろさき荘勘定に2123万4千円と緑の村勘定に140万5千円をそれぞれ追加し、合計1億4253万9千円にしました。

委嘱の基準は①学校教育の関係者②社会教育の関係者③家庭教育向上に資する活動を行う者④学識経験のあるもの4項目です。

そのほか、東日本大震災の被災者を優先した住宅の入居を促す村営住宅の条例の一部改正、1396万円を増額し1億6300万円の変更契約とする黒崎漁港施設機能強化(防波堤・護岸)工事の変更請負契約の締結を可決しました。

主な質疑

観光・物産の情報発信を金子議員

問 観光費の北緯40度ふだいまるごと観光物産の内容は、将来的に物産、観光の発信となるような政策はないか。

川向政策推進室長 群馬県大泉町の商工会との交流で、被災地の状況をお知らせしながら、物産販売をしている。

佐々木木工観光対策室長

海産物を販売している商店と一緒に販路拡大、PRを行って。今後PRの仕方など工夫をして進めたい。

がんばる交付金の内容は中村議員

問 歳入に「がんばる地域交付金」2千万円をくろさき荘の事業に充てるようだが、交付金は来年度もあるのか。

川向総務課長 25年度の国の補正に含まれた臨時交付金だが、26年度は未定となっている。

産業まつりの計画はないか中村議員

問 文化祭を前のように産業部門と併せた産業まつりとしてはどうか。

補正の主な内容(増額分)

- 村道の補修工事 1億5,800万円
普代港線と沢港線の舗装、白井萩牛線(しもへいグリーンロード)の維持修繕工事、駅前6号線の道路改良工事、白井堀内線の側溝の改良工事分。
- 白井地区水路補修工事増 300万円
三陸沿岸道路にかかる長途地区の水路の工事分。
- 被災農業者緊急支援事業費増 607万円
今年3月の大雪被害による農業用施設に対する修繕と再建の支援分。
- 運動公園野球場の修繕 116万円
平成28年度の「いわて国体」にかかる運動公園野球場の修繕。スピーカー機材とグラウンド内の3塁側の扉の修理分。
- 堀内簡水ポンプ室更新工事・設計料 340万円
堀内簡易水道のポンプ室立て替えのための工事、設計料。

次ページは一般質問

一般質問は、議員が執行機関の村長などに対し、事務事業の状況や将来の方針などについて、問い正したりすることをいいます。質問者は次の3人です。

- 1 番目・中上一登議員
 - 2 番目・坂下重雄議員
 - 3 番目・中村 裕議員
- ・活性化推進に危機感を
・気象異変による豪雨対策を
・豪雨災害の安全対策
・災害義援金への対応は

真剣に傍聴する村民(初日は17人)



気象異変による豪雨対策を

さかした しげお
坂下 重雄 議員

安全確保の体制強める

榎屋 村長

一般質問



活性化推進に危機感を

なかがみ かずと
中上 一登 議員

専門的チーム検討する

榎屋 村長



元村をはじめ太田名部などは急傾斜地が多く土砂災害警戒区域に指定されている

現在の防災対策は
坂下議員
近年、温暖化による異常気象で、各地で頻繁に洪水災害が起きている。幸い、本村では特に災害もなく県内でも一番、洪水被害などの少ない地域とされているが、今後もその保証はない。
住家、そのほかの危険力所を把握しておき、万々に備えて、それぞれの防災対策を立てておかなければならない。現在の対策、今後の取り組みについて伺う。

自身安全について自助の精神をも強めていただきつつ「広報ふだい」にも危険力所の位置図なども掲載し、なお消防団とも連携して、早めの情報収集、避難指示発信など関係者総力を注ぎ、訓練や必要な装備、物資、機材の検証も行って、安全確保に全力をつくす。



鉾山川(上区地内)にある向野場簡易水道の取水口

飲料水の供給体制を

坂下議員

以前に、沢山川から大量の土砂流出被害があった。そのことを忘れずに防災意識を高めていかなければならない。豪雨洪水によって沢筋にある小規模簡易水道や、河川からの取水口流失埋没などを想定して、飲料水の供給など非常時に即対応できる体制を立

私の経験では、1時間に60mmでも多かったと思っていたが、最近では70mmは普通で、時間雨量100mmを超えていることもある。
河川、施設などを守ることもやるが、まずは危険区域をしっかりと周知しておいて、避難などの情報に沿った行動を行い、命だけは守っていただきたい。

榎屋村長

豪雨災害が各地で発生しており、その対策の強化を図らなければと認識している。
危険力所の把握徹底は、県の調査で83カ所とされており、そのうち、河川渓流、急傾斜地の崩壊危険カ所は22カ所があり、災害防止法による土砂災害警戒区域の指定となっている。
調査が遅れているカ所についても、今後、国、県に対して、調査の促進、指定など迅速化を求めている。



ふるさと納税の仕組みや特産品情報を紹介するインターネット上の総合サイト「ふるさとチョイス」

中上議員
婚活支援活動、地域おこし協力隊募集、ふるさと納税推進と3つの質問をさせていただきます。
中上議員
婚活支援活動、地域おこし協力隊募集、ふるさと納税推進と3つの質問をさせていただきます。

中上議員
外部委託についてはどうか。青森県、宮城県の数々の市町村では民間に委託して実績をあげている。民間活用への考えはないか。
村長
副村長などから状況を確認してもらい、そういう外でのイベントを勉強していく。
中上議員
地域おこし協力隊の募集は、村で何を解決するのか具体的にして、来る人も明確でやりやすい環境が必要であると思うがどうか。

中上議員
ふるさと納税に電子決済を取り入れるべきと思うがどうか。また、そのお礼の商品構成はどう計画するのか。
村長
納税してくださる方の手続き簡略化のためにも電子決済の方向で検討させる。
お礼の特産品は外部委託を考えている。特典についてはいろいろ考えていく。

協力隊の募集状況は
中上議員
婚活支援、地域おこし協力隊募集、ふるさと納税推進が進んでいない。もっと危機感を持って臨むべきである。
榎屋村長
6月定例議会の一般質問でも指摘され、人口減少を危機感として共有し、本格的な取り組みなどに着手したところである。
「地域おこし協力隊」について

では、来年1月1日採用2名を予定し、10月末までの期間の中で現在男性1名、女性1、2名の募集を受け付けている。「ふるさと納税」の特典制度は、寄付者が村の特産品を選定できる「ふるさとチョイス」(左上写真)の導入を検討している。
若手職員による「人口減少対策プロジェクトチーム」も発足し、昨日2回目の検討会を行った。プロジェクトチームから上がった事業を議会と協議し、できるだけ実施する方向で進めたい。

民間の活用の考えは
中上議員
人材・人員の確保、あるいは組織再編に取り組んでいかなければならないと思う。人口減少対策プロジェクトチーム職員もそれぞれの仕事があつて集まることのできないという問題も出てきている。専門的なチームも検討したい。



上区で行われた若い役場職員との意見交換



なかもら ひろし
中村 裕 議員

豪雨災害の安全対策示せ

避難行動の徹底に努める

梶屋 村長

危険力所の把握は

中村議員

全国的に集中豪雨が発生している。普代村においては、危険地域力所などどうなっているのか伺う。

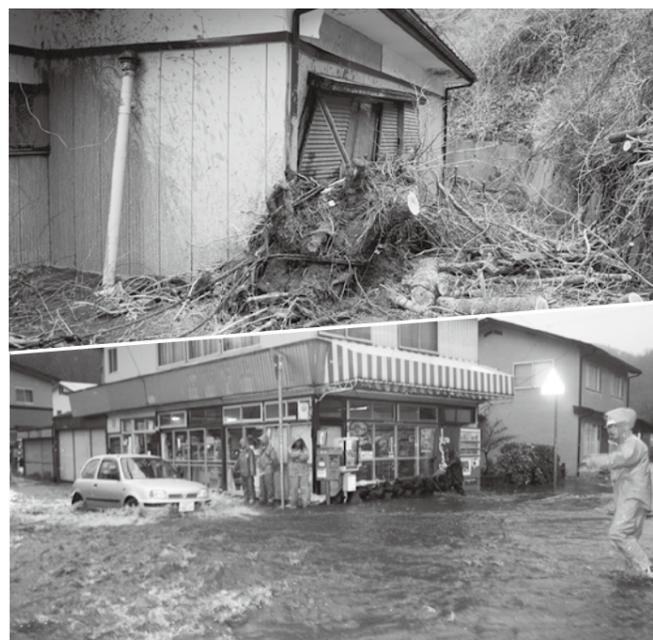
梶屋村長

県の調査により、傾斜度30度以上、5メートル以上の急傾斜地で、被害が出そうな人家が5戸以上など83カ所が危険力所に指定されている。

や、県により14年ぶりとなる危険区域調査の見直しが行われる。防災計画に基づき避難行動の徹底に努める。

ハード事業では、太田名部2カ所、太田自工裏、緑区頭首工付近、中学校裏などを県要望に上げている。

砂防事業では、今年度、梅垣さん宅付近の測量調査に入り、来年度着工予定である。河川の氾濫、洪水対策は、普代川、茂市川とも洪水マップ策定の指定河川となっている。



平成19年12月、村を襲った爆弾低気圧。堀内では民家に大木が直撃（写真上）、上区の国道45号はかん水（写真下）

ないことから、今検討を深めているところである。普代川、茂市川の河川改修は重要課題であるが、県では当面実現できないものとなっている。堆積土砂の除去で対応している。

中村議員

普代川の氾濫の恐れと、茂市川は被害を受けてきても対策がなされていない。対処を伺う。

村長

普代川の緑区付近には、沢山橋の上の頭首工にいくまでの途中に決壊が進んでいるので、振興局の土木部長に対処するようお願いしている。

旭日区の茂市川逆流による氾濫は、県にもいろいろな手段で提案し検討している段階だ。警戒区域の指定は、住民にも説明し通知していく。

義援金などの対応は

中村議員

東日本大震災の被害には、全国から数多くの支援を頂いた。支援金、義援金への対応はどう考えているか。

村長

全国各地より心温まる、励

ましのメッセージや、救援物資、被災者への義援金、村への支援金や見舞金など賜った。

住所の分かる方々には、お礼状と領収書を送付し、「広報ふだい」には全ての方々の氏名を掲載し、お礼とさせていただきます。

中村議員

その後、住所の分かる方々には大震災記録誌と漁協さんから提供いただいたすき昆布を村長、議長、漁協組合長の連名で、お礼状を添え発送させていただきます。

中村議員

礼状と品物だけで終わらせてしまうのか。矢巾丸とか高額な船などを支援していただいた方もいる。

村だけでなく、漁協の応援もいただきながら、もっと善意をもって対応すべきである。考えを伺う。

村長

3年ぐらい継続して支援してくださる方もいる。きっかけとしてつながりを持ち、ご支援をいただく方には、やはりそれなりの対応が必要で、今後、検討していかなければならない。

皆さんからの

請願・陳情

請願1件、陳情4件を採択

9月定例会に提出された請願・陳情は6件でした。総務常任委員会（小屋敷亮二郎委員長）で審査した結果、4件を採択することに決定。2件については、継続審査となりました。採択された請願・陳情は次の通りです。

県の医療費助成を「現物給付」に

▼請願人：岩手県保険医協会 長 箱石勝見（盛岡市）
▼請願の内容：本県の医療費助成制度は、医療機関の窓口でいったん一部負担分の医療費を支払い、負担上限額を超えた分が後日払い戻される。現物給付を導入すると、負担上限分の医療費を用意して

被災児童生徒の支援交付金の継続を

▼陳情人：岩手県教職員組合 九戸支部長 佐々木幸男（久慈市）
▼陳情の内容：国は東日本大震災によって経済的に困窮している家庭の子どもたちの就学を保障し、2011年度か

被災者の医療費負担免除の継続を

▼陳情人：岩手県保険医協会 長 南部淑文（盛岡市）
▼陳情の内容：6月30日現在で、県では3万1529人が仮設暮らしをしている。しかし、東日本大震災により被災された岩手県の国保

少人数学級の推進 教育予算の拡充望む

▼陳情人：岩手県教職員組合 九戸支部長 佐々木幸男（久慈市）
▼陳情の内容：小中学校の1学級の定員を30人以下とし、適切な定数改善を進めることと、義務教育費国庫負担制度の国の負担割合を2分の1に還元すること。さらに教育予算拡充を求める。

議員発議は4件

上記4件にかかる意見書を議員発議で提案し、これを全員賛成で可決。国に送付しました。
なお、「消費税10%への引き上げ反対の陳情」（陳情人：消費税廃止久慈地区各界連絡会 代表 大久保幸男）、「集团的自衛権に関する憲法解釈を変更することに反対する意見書の提出を求める請願」（請願人：新屋喜久男）は継続審査と決定しました。

教育委員会委員 荒木紀子さん選任に同意



9月30日で任期満了となる太田真柄教育委員の退任に伴い、新たに黒崎の荒木紀子さん（69=上写真）を選任することに同意しました。任期は平成26年10月1日から平成30年9月30日までの4年間です。

人権擁護委員の候補者 和村淑子さんを推薦



人権擁護委員の候補者に、中央区の和村淑子さん（66=上写真）を推薦することに決めました。任期は法務大臣が委嘱する日、平成27年1月1日から平成29年12月31日まで3年間の予定です。

54億円を認定

決算 特別委員会

村の施策を慎重にチェック!!

防災備蓄や税の徴収、飲酒 運転など課題を検証



みんなの幸せを願い、25年度は54億円が使われました

決算特別委員会（森田幸一委員長）は9月18日、19日の2日間開かれ、平成25年度の一般会計予算と6特別会計の総額54億850万7千円を審査し、原案の通り認定しました。主な質疑と答弁の内容は次の通りです。

防災用備蓄の補充を

金子委員
防災用備蓄資材などで期限切れの物もあると思うが、今後、補充する計画はないのか。

川向政策推進室長
5年ぐらいの賞味期限で、やや期限切れの物もある。少しずつ更新していきたい。期限切れが近い物は訓練などの

土地の借上の精査を

金子委員
土地借上料について、当時は必要と思いきり借りたと思うが、現在必要・不必要の精査をしているのか。

川向総務課長
約500万円の借り上げ料で21人の村民からお借りしている。
現在使用していない建物が存在している借地もある。建物を活用するとか、解体して不必要な土地はお返しすると

森林作業道の整備は

熊谷委員
森林の果たす役割は、災害の防止、水源、あるいは漁業に非常に大事だと考える。他市町村では、作業道をつくる際何割かの補助を出している。一歩踏み出して村でも補助金を出し、災害に強い作業道や森林をつくるなどの考えはないか。
太田副村長
森林づくりには、所有者

によりいろんな考え方があろうと思う。植林伐採などの事業も行っているが、災害に強い森林づくりはさらにPRを進めていかなければならない。林道の開設も必要性など勉強させていきたい。

村営住宅の設計委託料は

中村委員
村営住宅建築の委託料について、同じ形で複数個建築しているが設計管理委託料はどうなっているのか。
太田建設水産課長
25年度は堀内に24年度と同じタイプの住宅を2棟建てた。その場合、設計管理委託料は安くなっている。

鵜鳥神楽の国指定は

でその後運用開始となる。維持管理も含め、利活用については、今後検討する。
中村委員
鵜鳥神楽の現状はどうか。
村・教育委員会との関わりは
どうなっているのか。
松葉教育次長
村の貴重な伝統文化と認識している。
今後、国の無形重要文化財の指定に向けての支援や伝承活動などに取り組んでいく。

小規模多機能の体制は

親が動かなければならぬことがある。さまざまな理由で村外に入所している。
金子委員
黒崎の小規模多機能ホームの職員体制は十分か、サービス面でも十分機能できているのか。
坂下住民福祉課長
16人の利用者について、11人の職員体制で行っている現状である。

飲酒運転の撲滅策を

張ってもらおうと思う。
大上委員
飲酒運転の検挙率がワースト1位だが、緊急に会議を開くとか、予算を上げるとか、もっと撲滅に取り組みべきではないか。
川向総務課長
飲酒運転のワースト1は、恥ずかしいこと。住民の意識を変えることが必要と会議で出た。最近2日酔いで捕まる傾向にある。工夫しながら対策を進めたい。

水力発電の利活用は

金子委員
農地開発事業の債務負担は平成37年度の完了となっている。村の重要な財産であるダムの水の利活用を小規模の水力発電と併せどのように考えているのか。
太田建設水産課長
水力発電については、県

入所措置費委託料は

でその後運用開始となる。維持管理も含め、利活用については、今後検討する。
中村委員
保育所の入所措置費委託料の内容は、村内に入れる努力も必要ではないか。
坂下住民福祉課長
久慈市内などの保育所に入っている5人分の委託料となる。

税の聴取体制強化を

金子委員
歳入の村民税、固定資産税の不能欠損について、滞納者は固定化にあると思うが、自主財源となる税収入の確保や徴収体制の強化はどのように行われているのか。
横田税務出納課長
徴収回数などを増やしたり、いろんな調査をしながら、頑張っていきたい。
太田副村長
情報交換などを行っている中で、情報が徴収につながるように課の中で協力しながら徴収率を上げていくように頑

冷暖房機器の修繕は

か、今後調査をしながら精査を進めていく。
坂下委員
冷暖房機器定期点検業務委託料、冷暖房用冷温水発生機の修繕工事の内容は。
川向総務課長
冷暖房機器定期点検は毎年暖房機器の定期点検を行っている委託料で、何十カ所の点検をしている。
冷暖房用冷温水発生機の修繕工事2機あるポンプの内の1機が壊れていて、その修理にかかった部品交換などの費用となっている。

村の課題解決、私たちの手で！
小さな村の未来のために、中学生が挑戦した

1時間15分の議会



村の人口減少を食い止めるための、移住者の増加策を提言した大上楓稀議員

普代中学校（佐藤嘉宏校長、生徒71人）の3年生26人が10月8日、議会場で中学生議会を行いました。緊張の中、選ばれた5人の中学生が「一般質問」に登壇。村の課題に鋭く切り込み、村当局と質疑応答を繰り広げました。

26人の生徒たちは、この日のために6月の村議会を傍聴し、村の現状を調べ、課題を共有し、自分たちで村のために何か提案できないかと話し合いを重ねてきました。中学生が小さな村の未来を想い、「議会」という形で挑んだ1時間15分。その内容を要約してお知らせし、中学生議会から見たものを探ってみます。

人口減少対策を5人が一般質問

議員となった一般質問に登壇したのは森田賢君、上下一総君、大上楓稀さん、川向悠登君、道合勘太君の5人。生徒たちは、普代村の直面する課題を「少子高齢化の進展と人口減少」と位置付け、その解決に向けた視点として①雇用・産業

②子育て・教育③まちづくり④イベント・観光⑤財源の5項目をそれぞれが質問しました。

生徒たちは、緊張しながらも、村のトップに自分たちの提案を堂々とぶつけました。



森田議員は林業について提言 生徒を見つめながら丁寧に答弁する榎屋伸夫村長 自分たちの提案への答弁を必死にメモ まっすぐなまなざしの上下議員

人口減少にどう立ち向かう!!

林業を活用し雇用の創出を

① 森田 賢議員
トップバッターは森田賢議員。人口減少対策として雇用を増やすため林業に着目。その活用について提言しました。

問 普代村の人口減少の原因は、若者世代の働く場所の不足が一因であるとして、新たな産業や雇用の場を作ることが必要である。

村では漁業が盛んだが、新しい産業分野として林業はどうか。林業を始めるに当たり、会社や工場をつくり雇用の場を確保。その会社で作った家具などの製品を売り、利益が村に入るようにする。

そのため国が指定している「地域活性化総合特区」の「森林総合産業特区」に指定してもらい、補助金の援助を受ける。林業に携わる人材育成・資格取得のための講習会を開くことで、新たな産業の創出が可

能になるのではないか。

答 榎屋村長：多くの若者が村外に移り住んでいる現状の中、人口減少の歯止め策としてシイタケやホウレンソウ栽培、地元就職の会社を助成をしている。今後は、村内の食産業や観光産業にも力を注ぎ、大企業の誘致が厳しいので、起業支援にも取り組んでいく。

答 佐々木農林商工課長：村有林が250畝と少ない村にとっては、特区の導入は難しいが、森林の多面的な活用、適正管理を行いながら、支援制度も視野に入れたら林業分野での雇用拡大も検討する。

子育て支援・教育の充実を

② 上下一総議員
続く2番・上下一総議員は、子育て支援と教育の充実について質問しました。

問 現在の普代村の子育て支援は、無料の予防接種、学習塾、検定料の補助などで満足できる状況にあるが、

人口減少に歯止めがかからないのであれば、更なる支援が必要ではないか。

国による支援は、児童手当を現金支給するというもの。しかしそれが貯金にまわり、実際には使われないというデメリットがある。

村で同様の支援策をするときには、確実に村内で消費活動が行われるよう、カードや商品券での支給を提案する。

答 榎屋村長：人口減少の加速化を防ぐため出生率を高め、育児祝金など、さまざまな子育て支援を継続し、安心して子どもを産み、よき教育環境での子育てができるよう努力する。

答 坂下住民福祉課長：児童手当の商品券化は制度上難しいが、村単独予算での「子育て支援商品券」支給は可能と思う。子育て世代の負担軽減、商工業の活性化も考慮し検討する。

答 松葉教育次長：今後も子ども園や高校生までの医療費無料、また学力向上などに対し支援を続ける。

一般質問が始まり議会議場に緊張した空気が漂います

村議会議員や教育委員、学校関係者ら15人が傍聴





VOICE



議長を務めた
石川 草太君

村の課題解決に
少しでも役立ちたい

普段、村について深く考えたこともなく、普通に生活しているだけでしたが、村のことがたくさん分かったし、認識できてよかったです。とても貴重な体験ができました。議長という重要な役割だったので、原稿をかまさないようにすることと、発言している相手をなるべく見るように心掛けました。一般質問をしたみんなも、頑張っていたと思います。今回の中学生議会で、普代村がどんな課題を抱えているのかも分かったので、もっと村のことを調べて、少しでも村のために役立ちたいと思いました。

移住者増加に
情報の発信を

③ 大上楓稀議員

3番目の質問は大上楓稀議員。人口減少に対する、移住者増加策の必要性について質問しました。

普代村の人口減少に歯止めをかけるため、他地域からの移住者が必要であり、そのためには村をアピールする必要がある。

北海道の置戸町では、「地遊人」という満20歳〜40歳までの独身男女を対象に、滞在期間1年間で町が住まいや暮らしを支援する取り組みがある。

また現在村が行っている空き家のあつせんは、関連情報が少ないと感じる。村民の暮らしに関する情報発信を充実させることで、村への関心や理解を得ることができるとはいえないか。

答 榎屋村長：農山漁村では少子高齢化や人口減少により、活力が低下している。定年者の「第2のふるさと

役場駐車場の
有料化を提案

⑤ 道合勘太議員

最後は、自主財源の確保をテーマに役場駐車場の有料化などを、道合勘太議員が提案しました。

村が抱える課題の一つに、歳入における自主財源の割合が極めて低いことが挙げられる。そこで役場の職員駐車場、小中学校職員駐車場の有料化を提案する。

職場に車で通勤すると駐車料金がかるため、徒歩や自転車通勤できる距離に住むようになる可能性があり、人口増加につながる



堂々と発言する大上議員 道の駅建設を質問する川向議員 村の「財源」に切り込む道合議員 榎屋村長の答弁を真剣に聞く生徒たち

するど
村の課題に鋭く切り込む!!

探し」にも対応できるような職業のあつせん、空家登録の確保、住宅の整備、医療・福祉の充実など移住環境の整備など検討を深める。

答 川向政策推進室長：北海道置戸町など先進的な取り組みを参考にアピールを強化する。村では、観光資源、特産品、神楽などをさまざまな形でPRしているが、これらに携わっている村民の皆さんが活躍し続けることが重要。協力の取り組みをさらに推進する。

④ 川向悠登議員
「道の駅」建設
観光の充実を

続く川向悠登議員はイベント・観光の充実について切り込みました。

地域のブランドとして、海産物以外にもシイタケなどがある。地域の魅力を発信し、地域活性化につなげるために、ブログなどを活用してはどうか。

また「道の駅」を建設し、そこで販売したりする。ス

「村外に出る」が半数以上
村を思う生徒を1人でも…

あげられるよう取り組む。答 川向政策推進室長：村営住宅の家賃収入については、人口減の観点からも住環境の整備を計画的に進め

今回の中学生議会のきっかけは、佐藤校長が生徒を

対象に行った面談でした。「普代村にずっといたいのか」という問いに半数以上が「村外に出る」という回答だったことから、佐藤校長は「将来村を発展させたいと思うような生徒を一人でも多くしなければ」と結果を重く受け止め、普代の村づくり

たい。さらなる収入として村の特産品を特典とする「ふるさと納税制度」を検討している。今後も魅力ある村づくりを進める。

を考える機会として「議会」を思いつきました。

そのことを佐藤校長は大上浩史議長と榎屋伸夫村長に話したところ、2人とも賛同し中学生議会が実現しました。

閉会で榎屋村長は「提案は、議会と相談しながら全力で取り組みます。皆さんが社会人としてこの地域で活躍することを心待ちにしています」と期待しました。

大上議長は「村長には執行権があり議員には議決権がある中で、議員は村民の付託を受けてこの議場で皆さんと同じように議論しています。今後も村に関心をもち村のためにできることを考えてほしいと思います」と話していました。

VOICE



普代中学校 鈴木知代 教諭

生徒たちが頑張ることができたのは、「普代愛」があったからだと思います。それは1年での職場体験や2年での特産品販売など、村の皆さんにお世話になりながら、育まれてきたものだと思います。ずっと村のことを考えてきた人たちでした。いろんな人の協力がありできた中学生議会だったと思います。ありがとうございました。

VOICE



議会広報常任委員会 中上一登 委員長

学生が議場で意見を発表するということ自体「勇気があるなあ」と感じました。自分自身、初めころは徹夜で調べたり、練習したり、それでも足が震えたものでした。皆さんの質問は的を射ていて内容も充実。議員として参考にしたいくらいでした。村の将来の光にもなりうると思えた中学生議会でした。感謝します。



3カ月かけて臨んだ 中学生が主役の「議会」

中学生議会を開催するに当たり、生徒たちは6月からの社会科学の授業で、議会の仕組みや地方自治の概要などを学習。そして、村議会の6月定例会を見学しました。

一般質問で鋭く切り込む議員、すぐさま答弁する村長。繰り広げられる論戦に、教科書の中の議会はなく、生徒たちはほうぜんとして



6月定例会の一般質問を傍聴し議会の雰囲気を味わった生徒たち

生徒の感想

①雇用・産業▼大人は、どんなことにもしっかりと対応してくれるのですごくいいと思いました(深渡柚)▼高校を卒業した後、近くに仕事があれば村に住みたい(前川雅斗)▼村のことがよく分かったし、将来を考えるよい機会になった。将来、普代に戻って仕事をしたい(太田若那)▼中学生議会に向けてたくさん調べ物をしたが、もっと詳しく調べることができたと思う。将来、自分が村議会の場に立ったら今回よりもっと調べて臨みたい(森田賢)▼はじめはよく分からなかったが、調べていくうちに自分も将来、村に貢献したいと思いました(赤坂日菜子)

②子育て・教育▼中学生議会を通して、普代村の将来のことを考えると、たくさんの方が考えてきた(赤坂舞華)▼考えがあっても、そう簡単には実行できないうちだと思いました(宮田綾)▼普代村の活性化が必要だし、子どもへの支援も必要だと思いました(道上夢子)▼議員として議会で発言でき、よい経験になりました(上下一絵)▼中学生の考えにも、しっかりと答弁してくださるうれしかった

たです(佐藤大知)

③まちづくり▼「村について全く考えたことがなかった自分が恥ずかしい」と感じるくらい、さまざまなことをしていて驚きました(大上楓稀)▼何か提案があっても、実行するまでにたくさん話し合わなければならぬし、移住したら移住してもらって終わりではなく、そこから普代村をアピールすること大切だと思いました(及川琴)▼僕たちが大人になったときには、かなりの人口減少が進んでいると思うが、役場の偉い人になったら解決策を考えたい(熊谷龍也)▼人口が減っていると聞いて将来が心配なので、自分も普代に住み続けたいと思いました(大上祥永)▼時間をかけて「普代でもできそうな具体策」を考えましたが、村長さんも課長さんも、それに対して話し合ってくれたことと思います。まず、そのことが私にとってはすごくいいことだと思うし、うれしかったです(太田美里)

④イベント・観光▼少しでも普代のために何かできるように、進路を考えたい(太田寛章)▼自分たちの質問や意見に対して、しっかりと答えてくださ

した。

中学生議会を担当した社会科学の南隼人講師は、「6月定例会後から生徒たちは、『広報ふだい』で村が行っていることを調べたり、村民にインタビューをしたりして、普代村が抱えている課題は何なのかを一人一人が考え話し合いました」と振り返ります。

その後、生徒たちは5グループに分かれ、インターネットなどでほかの自治体の先進事例を調査。さらに話し合いを重ねました。

生徒たちは6月の中総体、7月の期末テスト、9月の新人戦も終え、文化祭の準備と平行して作業を進めました。構想から3カ月、やっとなりになり、発表する5人の代表も決定。石川議長を含む6人は、前日の夕方に議場でリハーサルをし、初の議会に臨みました。

VOICE

事前学習こそ 価値ある時間



普代中学校
佐藤嘉宏 校長

今回の中学生議会は、わずか1時間15分の時間の中での学習ではない私は思っています。質問を練るに当たり、社会の授業でたくさんのことを学んで話し合いをしました。そして普代村のことをより深く知ることができたと思います。

私はその成果が1時間15分に凝縮されていたと思います。そして、実際にその前の段階での学習こそが、生徒たちが普代村を学ぶ、すごく価値のある時間だったと思います。

行政や議会の皆さんは、限られた歳入と歳出で、村の本質的課題に苦慮しながら、舵取りをしてくださっています。その苦悩も生徒たちに分かってもらいたいと思います。また、生徒たちの質問に対しても、役場の皆さんが答弁書という形でたくさん時間をかけて回答をつくってくださっているということを理解し、感謝の気持ちを持ってほしいと思います。

やがて、大人になり、26人のうち確実に何人かは村内で暮らしていくものと期待しておりますし、村外に出て働くことになった生徒の中にも、「ふるさと納税」という制度を利用して、普代村の復興や発展に寄与してくれる、そういう大人になってほしいと思います。

一生懸命な想いの先にある 小さな村の可能性

巨大津波が襲来した東日本大震災から3年半。村では復興も進み、漁業者は定置網漁に精を出しています。しかし、三陸沿岸の被災地などでは、未だに多くの人が仮設暮らしを強いられています。

そんな中、あるメディアで「被災地の若者離れ」と

いう記事を目にしました。若者の地域離れの理由は「地元を理解する機会がない」「地元とつながる機会がない」として、「地元の未来を開く方法を知らない」の3つだとありました。

そんな1つの現実の中、今回の中学生議会で生徒自らが村のことを調べ、課題

を探り、何度も話し合い、大人に向けて発信したことは、とても意義のあることだと感じました。そして何より26人の中学生から「村を何とかしたい」という一生懸命な想いが伝わってきました。

生徒たちが「議会」という場で挑んだ1時間15分。そこには村づくりの原点があり、小さな村の未来を切り開く無限の可能性が見えました。

議場で深まった「普代愛」

皆が一つになったとき、無限の可能性が広がり
未来は切り開かれる





海フェスタ、4,500人で賑わう

「2014 海フェスタ in ふだい」(同実行委主催)が10月5日、太田名部漁港内で行われ、村の人口を上回る4,500人の人出で賑わいました。会場内は新鮮な地元海産物などが格安で販売されたほか、サケ汁やコンブひつまみ汁もなんと1杯100円で販売。人気の活魚のつかみ取りや漁船の海上パレード、ステージでは神楽や民謡ショーなど盛りだくさんの内容が繰り広げられました。

議会では、来賓コーナーを担当。議員が生きのよいイカやタコ、ホタテ、マンボウなどを炭火で焼いて、友好交流のある矢巾町の町部局や議会、消防関係者などに振る舞い、日ごろの感謝と普代の海の幸をPRしました。多くの人で賑わう太田名部市場(写真上) 議員らは新鮮な海の幸を炭火焼きでおもてなし(写真下)



◆ 議会の主な動き

議員が出席した会議や研修会、行事などを報告します。

(8月1日～10月31日、抜粋)

- 8月 ▼1日・久慈地区市町村議会連絡協議会定期総会(久慈市)
- ▼4日・戦没者追悼式(英霊塔前)、議会運営委員会(役場)、村議会第6回臨時会(役場) ▼6～7日・議会夏季議員大学講座(盛岡市)
- ▼14日・村長旗争奪地区対抗野球大会(運動公園野球場) ▼21～22日・平成26年度岩手県・秋田県・山形県合同中央研修会並びに岩手県選出国会議員との懇談会(東京都) ▼27日・市町村要望(役場)
- ▼29日・岩手県沿岸知的障害児施設組合例月現金出納検査(宮古市)
- 9月 ▼1日・知事を囲む懇談会(盛岡市) ▼5～7日・ふだいまつり(村内) ▼10日・議会運営委員会(役場) ▼12日・普代村敬老会(社会体育館) ▼13日・うねとり荘敬老会(同荘) ▼17～19日・村議会第7回定例会(役場) ▼26日・第2回政務調査会・臨時総会(盛岡市) ▼27日・はまゆり子ども園運動会(社会体育館) ▼28日・岩手県沿岸知的障害児施設組合例月現金出納検査(宮古市)
- 10月 ▼2日・リアス・ハイウェイ早期実現八戸大会(青森県八戸市) ▼5日・海フェスタ in ふだい(太田名部市場) ▼8日・中学生議会(役場) ▼14日・久慈広域連合議会議員全員協議会(久慈市) ▼15



- 日・埼玉県越谷市議来村(普代水門ほか) ▼16日・国道455号柏木平地区トネル工事安全祈願祭(柏木平地内) ▼19日・矢巾町産業まつり(矢巾町)
- ▼19～20日・第2回村議会行政視察研修(紫波町・八幡平市) ▼20日・岩手県沿岸知的障害児施設組合議会定例会(宮古市) ▼21日・久慈広域連合議会定例会(久慈市)
- ▼24日・町村議会議員シンポジウム(盛岡市) ▼26日・ふるさと普代会(東京都) ▼30～31日・町村議会広報担当者研修会(花巻市) ▼31日・岩手県沿岸知的障害児施設組合例月現金出納検査(宮古市)



あしがき

▼中学生の村議会傍聴に続き10月に模擬中学生議会が開かれました。その後の皆さんの感想文を拝見して、古里普代村に強い想いを持っていることにうれしくもまた、心強く思いました▼サケは古里を出て4年後に帰ってきます。しかしその帰率はわずか3%といわれています。やがて中学生の皆さんも、広い社会の海に出て行くことでしょう。その帰昇率を上げるのは、我々議員、行政の役割も大であると痛感しました。

(坂下重雄)

▼田んぼに黄金色に実り、こうべをたれていた稲穂も、今はなくなり、夏を盛り空に向かつて育っていた野菜も、今は秋冬の野菜に代わり、大風が吹くごとに山を彩っていた木々の葉も落ち始め、日増しに冬が近づいています▼議会だよりをお届けします。村民の皆様の声をどしどしお寄せください。お待ちしております。

(森田幸一)

議会広報常任委員会

- 委員長 中上一登
- 副委員長 森田幸一
- 委員 坂下重一
- 委員 小中居敏光

